

調査成果 秦野市内の縄文特集①(縄文時代後期の配石集落址) ~稲荷木遺跡~



写真1 周堤礫をもつ住居跡と列石

稲荷木遺跡は、秦野市を東流する水無川の左岸に位置します。稲荷木遺跡 12 区で発見された縄文時代後期後半の集落は、大きく二つの遺構群に分けられます。そのひとつが調査区の南にある遺構群で、縄文時代後期中葉の周堤礫をもつ住居群とその住居張出基部から東西にのびる列石（3号配石、写真1）、住居の前面に広がる配石群（写真2）からなります。

稲荷木遺跡については、発掘帖No.28でも紹介しているよ！



写真2 住居前面に広がる配石群



写真3 環状立石(1号配石)

もう一方は、調査区の中央に展開する遺構群です。縄文時代後期後半の2基の大型配石、1号配石(仮称環状立石、写真3)と2号配石(仮称環状配石、写真4)があり、それを住居群や配石群が取り囲みます。

環状立石(1号配石)は、環状の石積み最上段に立石をめぐらせたもので、環状配石(2号配石)は、横倒しの石を環状にめぐらせた大型配石遺構です。これら南と中央の遺構群には、大規模な土地造成(土地の削平と盛土)の痕跡がありました。



写真4 環状立石(2号配石)

調査成果 秦野市内の縄文特集②(縄文時代後期の配石集落址) ~菩提横手遺跡~

菩提横手遺跡は、葛葉川とその支流に挟まれた南北に細長く伸びる台地上に立地します。今回発見された縄文時代後期の集落は、北から南に向かって緩く傾斜する斜面上に営まれています。住居群は斜面の先端部付近に作られ、その前面には河原石を直線的に並べた列石が作られています。

住居は、張出部に平らな石が敷かれる敷石住居跡です(写真5、青線は住居主体部)。列石は、住居張出部から左右両側に延び、石垣状に2~3段に石を積み上げた部分の前面に、縦長の石を縦・横交互に並べたものが見つかりました。これに接して石を方形や円形に配置した配石が見つっています(写真6・7)。



写真5 敷石住居跡と住居前面の列石



写真6 住居前面の配石群



写真7 住居前面の配石(立石と円形配石)



写真8 配石墓群

表紙の大形中空土偶もこの遺跡から発見されたんだよ！



住居は、柱穴の配置や複数の炉址の位置から、位置を少しずつずらしながら、重なり合って繰り返し作られていることがわかりました。また、住居群の南東部には配石墓(石を配置した墓)がまとまって作られています(写真8)。